

令和7年度ライフサイエンス人材育成事業セミナー

医療・福祉・ヘルスケア機器等

医療・健康ビジネスの未来

医療機器・ヘルステック関連の専門講師をお招きし、事例を交えながら本分野の未来について、わかりやすく紹介します。
医療福祉ヘルスケアに関わる方はもちろん、さまざまな分野の皆様のご参加をお待ちしております。

日時 令和7年12月2日(火) 13:30-15:30

会場 秋田県総合食品研究センター 1階 研修室1

(秋田市新屋町字砂奴寄4-26) ※駐車場無料、会場内に自動販売機はありませんので飲み物はご持参ください

参加
無料

第1部 基調講演 「医療・健康ビジネスの未来」
医療機器業界やヘルステックの今後10年の見通しについて

早稲田大学大学院経営管理研究科 客員教授
キャップスクリニックグループ代表
特定非営利活動法人がんサーネットジャパン監事

鶴谷 武親 氏

多摩美術大学講師を経て、2005年より早稲田大学大学院にて教鞭をとる。セコムにてグループ事業戦略などを担当後、デジタルハリウッド、アイ・エム・ジェイ、デジタルスケープをはじめ、数多くのスタートアップ創業に携わる。早稲田大学では全学教育、社会人教育をはじめ、博士人材の育成、起業家育成等を担当。早稲田大学EDGEプログラムアドバイザーを務め、大学院ベンチャーの育成にも力を入れる。

日本初の本格的クリニックチェーンの確立を目指して操業されたキャップスクリニックは、現在国内48拠点で365日年中無休のかかりつけクリニックを展開している。朝9時から夜9時まで開院し、地域の子育て世代に不可欠な存在となっている。



第2部 県内事例紹介

当センターではライフサイエンス分野に関する展示会出展・研究会支援事業(補助金)を実施しています。
本事業を活用した取り組み事例について紹介します。

事例1 NPO法人光環境DX研究学会

理事長 河村 希典 氏

事例2 あきた介護予防研究会

会長 渡部 真吉 氏

申込方法

下記申込フォームまたはFAXでお申し込みください

募集締め切り

令和7年11月21日(金)

お問合せ

あきた企業活性化センター 研究推進課
Tel:018-860-5702 E-mail:setsubi-ken@bic-akita.or.jp

申込フォーム



専用ページ
(FAX用紙もこちら)



主 催/公益財団法人あきた企業活性化センター 後 援/秋田県

BIC
AKITA532
2025.11

ビックあきた Vol.532 2025年10月31日発行 編集・発行/公益財団法人 あきた企業活性化センター 〒010-8572 秋田市山王三丁目1番1号
TEL.018-860-5610 FAX.018-863-2390 本誌は、賛助会員への配布となっております。購読を希望される場合は、上記までお申し込みください。

BIC Business Information Center
AKITA

2025 vol.532

11

[ビックあきた]
公益財団法人
あきた企業活性化センター

LACOSTE
MANUFACTURING ACADEMY

世界的ブランドの製品を作る
高いモチベーションと誇り

経営探訪 [株式会社 ヴァルモード]

- 04 起業家特集
karuna yoga
ときめきずLabo
- 06 主催事業報告
- 08 経営サプリメント
- 10 お知らせ

SNSでも県内企業の取組や
事業をサポートする情報を発信!



Instagram



facebook



Youtube



「LACOSTE」を作り出すプライド。 長年着続けることができる信頼ある製品を目指して



株式会社 ヴァルモード

フランス発祥のファッションブランド「LACOSTE(ラコステ)」のカジュアルウェアの生産を担う株式会社ヴァルモード。ラコステ製品を日本で展開しようと、横手市で衣料品製造・卸を行っていた丸巳繊維と共に昭和63年に合名会社として設立し、今年で37年目を迎えた。実は、ラコステの自社工場は世界で3つしかなく、日本国内では唯一同社だけである。世界で愛されるブランドを支える技術とは何か。同社工場長の柴田善己さんが見据える、同社と縫製業のこれからについてお話を伺った。

工場長 しばた よしみ
柴田 善己

〒013-0055
横手市朝日が丘3-27-25
TEL 0182-32-8677
FAX 0182-32-1750
<https://valmode.jp>



HP



反物から製品を製造 高い技術力を保有する縫製工場

横手市にある株式会社ヴァルモードの本社工場を訪れると、大きくラコステのロゴが印字されたシャッターが出迎えてくれた。

「当社ではラコステのフランス本社から届いた仕様書に基づいてパターンを起こす企画課、反物からパターンに合わせて裁断する裁断課の他、縫製から仕上げ、検品までの部署を揃え、一貫して製品を作り上げ、ラコステジャパンに出荷しています。」と語るのは、設立当初から勤務する工場長の柴田さん。

ラコステの製品を作るには、本社が定める基準に準じた技術や環境を整える必要がある。原料は綿100%の素材を仕入れ、糸は超長綿という希少な糸を使用。縫製に使用するミシンの針も決められているだけでなく、裁断から生まれた端材の処理にもコストと環境負荷のかからないよう取り組んでいる。この基準を叶えた自社工場は、世界でも本社があるフランスの他、アルゼンチンと日本の3か所にしか存在しない。



パーツを組み合わせたときに布の繊維や色味が合うように裁断を行っていく。

機械だけでは成立しない縫製業 働きやすい環境を作りたい

工場内では、裁断や縫製には最新の機械が導入されているが、一方で反物の材質の確認や仕上げのアイロン作業、そして検品には、機械には再現できない繊細な手仕事の領域があった。

「ポロシャツ一枚を梱包するのに、人の手で作業した方が美しく仕上がります。縫製業はこの先も絶対に人の手が必要な業種です。」と語る柴田さん。

現在同社では80名の社員が働いており、そのうち8割が女性。設立当初から女性にとって働きやすい環境づくりに力を入れてきたという。



日本の漫画や映画のキャラクターとのコラボ商品。発売後、即完売したという。

「社員の半数以上は未経験で入社した方です。入社して初めの1、2週間は基本的なことをレクチャーしますが、その後は完全にOJT。実際に業務を進めながら教えていくスタイルをとっており、今は活性化センターの協力も得て社員の技術が見える化し、一人ひとりに合わせて設定した目標を達成できるようにしています。」

さらに、以前は繁忙期に残業もあったというが、2年ほど前から柴田さんが本社と掛け合い、業務量が均一となるよう受注量を調整。今では社員全員が定時で退社できる体制になったという。人の手が必要だからこそ、働く環境を整え、定着率を高めたいという想いが表れている。

素晴らしい素材と技術で “本物”を作り上げる技術者集団

ヴァルモードという企業の特徴は何かと伺うと、柴田さんは即答した。

「やはりここで働く職人たちが、『自分たちは世界最高峰の製品を作っているんだ』という誇りを持っていることではないでしょうか。これは彼らにとって日々の

製造のモチベーションにも繋がっていると思います。私たちが長年ラコステの自社工場として認められているのも、ラコステ本社からのレベルの高い要望をそれ相応の技術力を持ってクリアできているからだと自負しています。私もラコステの服を長年愛用していますが、10年、20年持つんですよ。それだけ良い素材と素晴らしい技術で作っているということだと思います。」

ファストファッションが流行している現代において、長年にわたって着続けられる衣服を作るための技術と細部にまでわたるこだわりで改めて感心させられる。

柴田さんは今後、さらに工場内のDX化に取り組んでいきたいと意気込む。

「特に一枚一枚紙で出力している仕様書をデジタル化したいですね。ただ、既存の方法、慣習を変えていこうとすると、抵抗を感じる社員もいます。まずは意識を変えていく必要があると感じているので、これからも、工程改善トレーニングやベンチマーク研修などへ参加し、外部からの刺激を受けながらじっくりよりよい環境に変化させていきたいですね。」



蒸気を当ててしわを伸ばし、光に透かせることで反物の色を確認。長年の経験をもつスタッフの眼光は鋭い。



ラコステの象徴であるワニのロゴマークも一つ一つミシンで縫い付けていく。



あべ ゆみ
代表 阿部 由美

karuna yoga
〒012-1241
雄勝郡羽後町田代字明通59
TEL:080-6730-8742
https://www.instagram.com/spice_rasa/



instagram



ヨガで心身を整えて、
健やかで幸せな生活を
支えていきたい

自身が救われた、ヨガを広めたい。

「karuna yoga」の代表・阿部由美さんは、以前東京都内でケアマネージャーとして勤務していた。仕事にまだ慣れていなかった頃は、帰宅しても日中の勤務のことが頭から離れず、夜になっても忙しない気持ちが続いていた時期があった。そんなとき、ダイエット目的で始めたホットヨガを体験したことによって、頭の中がクリアになり、心も身体も整ったという。

その後、結婚を機に秋田へ移住。年を重ねるごとに体調のゆらぎを感じ始め、不眠に悩まされたが、その時もヨガをしたことで、ぐっすりと眠ることができた。改めてヨガの素晴らしさを実感した阿部さんは、同じような悩みをもつ方々に、日常生活でも取り入れられるヨガを広めたいと思うようになり、2年ほどかけて資格を取得。昨年8月に開業した。阿部さんのヨガのベースにある考え方はインド由来の伝統医学であるアーユルヴェーダを取り入れたものだ。



車椅子の方でも参加できるのがチェアヨガの魅力。
お年寄りの方にも身体を動かし、心を整える経験を伝えたいと阿部さんは語る。

ミドル世代以降の方の心と体に寄り添いたい

ひと言でヨガといっても、さまざまなジャンルがある。アグレッシブなヨガもあるが、阿部さんは前職のケアマネージャーとしての経験も活かし、ゆるやかな「シニアヨガ」や、座ったまま全身を動かすことができる「チェアヨガ」をメインに行っている。これは、シニアの方や車椅子の方でも体験することができるプログラムだ。安定した姿勢で、呼吸を意識しながら心地いいところまで伸ばすことで気分転換や体の機能維持にも繋がる。

これまで、県南を中心に商工会女性部や事業団で講座やワークショップを開催。また、前職で築いた人脈を活かし、県外の介護施設でもヨガ講座を行っている。

今後はヨガと併せて食事や生活習慣など季節や個々の体質に合わせたプログラムを提案していきたいと展望を語る。事業名にあるkaruna(カルナ)とはサンスクリット語で「思いやり、慈愛」という意味。ヨガで心と身体に優しさを届け、人々に“健幸”な生活を送ってほしいという阿部さんの思いが込められている。



冬期は、積雪で家から出られないことで運動不足になりがちな方向けに家でできる運動不足解消のヨガ講座を開催。



ささき ゆうり
代表 佐々木 悠莉

ときめきっずLabo
〒015-0801
由利本荘市美倉町44-2 プリンセスビル1階
https://www.instagram.com/tokimekids_labo/



instagram



知育のひとつである
「感覚遊び」を提供し、
豊かな発達を促す

保育士時代に感じた集中力を養う重要性

由利本荘市で幼児教室「ときめきっずLabo」を運営する代表の佐々木悠莉さん。幼稚園教諭と保育士の資格を持ち、かつては保育園で働いていたという佐々木さんは、保育士時代にいずれの年代も担任を務めたが、年長の担任を務めた際、小学校の先生たちと交流する中で「最低限30分は集中できるようになって、小学校に通ってほしい」という思いを持っていることに気づく。小学1年生の不登校の理由としては、45分の授業に集中することができず、保育園と小学校のギャップを感じる「小1プロブレム」も多いという。

保育園のうちから、遊びの中で想像力や問題解決能力、知的好奇心を育て、集中できる土台を作れたらいいなと考えていた時、偶然海外で注目されている「センサリープレイ」の存在を知る。これは五感を使った感覚遊びのことで、古米やスライム、色を付けたパスタなどさまざまな質感のものに触れることで子どもの感覚を刺激し、発達を促すものだ。



センサリープレイ用のトレイには月ごとのテーマに合わせたおもちゃが広がる。
9月のテーマは「宇宙」。

遊びを通じて、子どもの可能性を広げたい

佐々木さんは保育園を退職後、センサリープレイの資格を取得し、今年4月に教室を開業。現在、土日は1歳半～小学1年生までの子どもを対象とした教室を開き、平日は放課後等デイサービスと連携しながらセンサリープレイを体験してもらっている。特に、障がいを持つ子どもたちにとってセンサリープレイは、集中力を高めるだけでなく、作業療法としての一面も担っていると語る佐々木さん。ものを投げたり、異食をしてしまう子どもも、指先や口の感覚を養いながら遊んでいくことで、正しいものの使い方を覚えていくという。

「現代の子どもたちは動画を見る時間が増え、感覚遊びが足りていないように思います。保護者の方からは、お子さんが教室に通うようになって動画を見ずに遊びに集中できるようになったという声もいただいています。」と佐々木さん。今後は行政等と連携し、支援を必要とする子どもたちにもセンサリープレイを提供できるよう、事業を展開していきたいと語った。



由利本荘市で運営する教室。
遊び心溢れる内装が子どもから大人までウキウキさせてくれる。



起業家・スタートアップ交流ラボ2025

9月28日、秋田拠点センターアルヴェにて「起業家・スタートアップ交流ラボ2025」が開催され、会場には35のブースが出店された。開会式終了後、ステージではファシリテーターにファイオン株式会社代表取締役・マティログ氏を迎え、先輩起業家によるトークセッションが開催された。

出店ブースには秋田大学とNTT東日本によるイノベーション・プログラム「ASHIOTO—足音—2025」と連携し、参加した若手人材も多く、ITやAIといった先進的な技術を取り入れた事業を検討する団体や学生たちの交流が盛んに行われ、会場は活気に満ちていた。



1 スペシャリストインタビュー 「水野勇気を深掘り! 3つのターニングポイント」

ゲスト 秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役社長 水野 勇気 氏

平成21年に秋田ノーザンハピネッツ株式会社を創業した水野さんに、会社経営におけるターニングポイントを3つ振り返ってもらったトークセッションを開催した。会場では熱を帯びた水野さんの言葉に、聞きながら聞き入る参加者の姿が多く見られた。

高校時代から興味を持っていたプロスポーツマネジメントを本場・アメリカで学び、その後国際教養大へ進学した水野さん。会社設立前には、自らが関わる人を増やし、資金を集めるために「秋田プロバスケットボールチームをつくる会」を作った。毎日朝と夕方に秋田駅前で署名活動を行い、多くの県民に呼びかけを行った。そのころ、先に成功している事例として仙台89ERSに経営や運営

のためのノウハウを学びに行っていたという。「ラッキーにはすべて行動がある」と当時を振り返り、「人脈は作るものであり、行動しなければ得られないもの」と断言する。リサーチや経験を通じて得た自分の考えは、自ずと事業計画書に深みを与えてくれたという。

Bリーグプレミアに参入するためには、2シーズン連続で年間平均売上が12億を超える必要がある。秋田には年間売上10億を超える企業はほとんどない中で、この12億を達成し、ハピネッツは昨年12月にBリーグプレミア参入を決定している。

水野さんは「目標は大きく、ゴールを設定したら逆算して計画を立て、ひとつひとつクリアしていくことが大切」と力強く語った。



2 若手キーマントークセッション 「秋田発全国行き! ローカル発のポテンシャルとは?」

ゲスト 合同会社Anique 代表 斎藤 美奈子 氏
有限会社ぬまくら(ichinosai) 専務取締役 沼倉 佑亮 氏

北秋田市阿仁で地元のお母さんたちの漬物文化を途絶えさせないため、旧駅舎を使った共同の加工所「がっこステーション」を設立した合同会社Aniqueの代表・斎藤さんと、家業であるシルクスクリーン印刷の事業を継ぎ、企画とクリエイティブの力で、アニメやアーティスト、プロスポーツのグッズ制作を行っている有限会社ぬまくら(ichinosai)・専務取締役の沼倉さんが登壇。ローカル発の企業がもつポテンシャルについてトークセッションを行った。



斎藤さん

「私は地元のお母さんたちと一緒に活動しています。昭和のお母さんたちは気配り・目配り・心配りが完璧です。彼女たちのポテンシャルが素晴らしくて、日々前向きに成長しているんです。以前は消極的だった面もありましたが、今はこちらの提案に前向きに挑戦してくれたり、彼女たちから提案が出てきたりします。まだまだ可能性があると感じています。今、エチオピアで日本食レストランを出す方がいて、立ち上げ要員として関わっていますが、いぶりがっこにも興味を持ってくださっています。秋田にはポテンシャルがたくさんあるので、食というひとつの軸を持って海外で挑戦してみたいですね。」



沼倉さん

「ノウハウよりもノウハウ。解決したいことがあれば、それを解決できる人とどう出会うかというところが大事だと思います。グローバルな視点を持つためのアプローチとして、さまざまな方法があると思いますが、僕はマーケットから考えるようにしています。こういうところに需要があるのではと予測を立てて、実際に行ってみる。色んな人にお会いして、話を聞いてというところから始めています。漫画、アニメ、ゲームの分野は海外に評価されやすく、自分たちが世界に打ち出していくことができる分野はこれだ、と思って挑戦しました。実際、商品や企画が海外に出ていくことが少しずつ起き始めているので、その流れを大きくしたいなと思っています。」

参加者の声

クラフトコーラ、竹小物など

AIU環境クラブ

代表代行 長谷 和奏さん(秋田市)

国際教養大学の公式クラブである「AIU環境クラブ」では、部員が興味を持った環境問題に対して、主体的にさまざまなプロジェクトを立ち上げ、課題解決への取組を行っている。

地域と連携を図り、農業のお手伝いや清掃ボランティアなど学内外問わず精力的に活動している。

「部員は県外から秋田に転入した人が多い。秋田の方が気付いていない魅力を引き出し、眠っている資源を活用しようという視点で活動しています」。



ハンドメイドアクセサリ

NiCotto*

佐藤 彩乃さん(仙北市)

金属アレルギーに対応した手づくりアクセサリを作り、販売している佐藤さん。現在は秋田市内のお店での委託販売のほか、Webでの販売を行っている。

「起業したのは3年前です。幼い頃から細かいものを作るのが好きでした。母が金属アレルギーだったことからアレルギーでも着けられる商品を作るようになりました。実際、金属アレルギーのお客様は多くいらっしゃるの、喜んでいただけて嬉しいです。将来的には自分のお店が持てたらと思っています」。



賃貸から始まる空き家マッチング

株式会社OIC(えうる不動産)

三澤 雄太さん(大館市)

社会問題となっている空き家問題。三澤さんは、空き家を売却するのではなく、まずは賃貸で貸し出す選択肢を提案するサービスを11月から開始する。

「移住者の多くは、一軒家での暮らしをイメージしていますが、一軒家の賃貸物件は非常に少ない。一方で買い手のつかない空き家は多い。まずはトライアル的に賃貸として住んでもらい、最終的に納得して購入するというスキームができれば。双方にメリットのある方法として広げていきたいです」。



経営 サプリメント

テーマ

AIによる創業支援

～デジタル時代の新たな起業支援のかたち～

AIは創業支援を効率化し、
地方の課題解決にも役立つ可能性を持っています。
今後の起業の形を変える AI活用について紹介します。



秋田県よろず支援拠点
ジェネラリストコーディネーター

渡辺 光彦
Watanabe Mitsuhiko

【主な経歴】
秋田県能代市出身/秋田市在住。
秋田銀行、秋田市役所、秋田県信用保証協会の勤務を経て
令和7年4月より秋田県よろず支援拠点コーディネーター
として勤務。

【お問い合わせ】
秋田県よろず支援拠点 TEL .018-860-5605

01 はじめに

デジタル変革が加速する現代において、人工知能（AI）技術は創業支援の分野でも革新的な変化をもたらしています。秋田県をはじめとする地方都市においても、AIを活用した創業支援により、これまでにない効率性と可能性を秘めたスタートアップエコシステムが形成されつつあります。

02 AIが変える創業支援の現場

1. ビジネスプラン策定の効率化

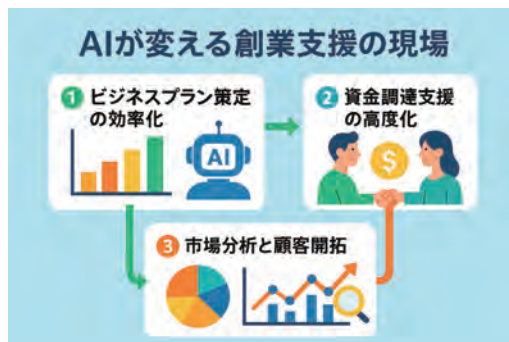
従来、創業者が事業計画書を作成するには、市場調査から財務計画まで膨大な時間と専門知識が必要でした。AIを活用することで、業界データの分析、競合調査、市場規模の推計などを短時間で実行できるようになりました。特に、生成AIを活用したビジネスプラン作成支援ツールは、創業者のアイデアを具体的な事業計画に落とし込む際の強力なパートナーとなっています。

2. 資金調達支援の高度化

補助金申請書や融資申請書の作成においても、AIは強力な支援ツールとなります。過去の成功事例を学習したAIが、説得力のある申請書類の作成をサポートし、創業者の事業内容、成長ステージ、資金需要に基づいて、効果的なピッチ資料の作成までサポートします。これにより、資金調達の成功率向上と期間短縮が実現されています。

3. 市場分析と顧客開拓

AIによる市場分析は、従来の手法では見落としがちな潜在的な市場機会や顧客セグメントを発見します。ソーシャルメディアのデータ分析、消費者行動の予測、競合他社の動向監視など、リアルタイムでの市場情報収集が可能となり、創業初期の重要な戦略決定を支援します。



03 効果的なAI活用のためのプロンプト設計

AIを創業支援に活用する際、最も重要なのは適切なプロンプト（指示文）の設計です。AIは非常に高度な能力を持っていますが、「何を求めているのか」を正確に伝えなければ、期待する結果は得られません。適切なプロンプト設計により、AIからの確で実用的なアドバイスを引き出すことができます。

効果的なAI活用のためのプロンプト設計



役割設定(Role)AIに専門性を与える

AIに期待する専門性や立場を明確に定義します。「あなたは経験豊富なマーケティングコンサルタントです」「金融機関審査担当者の視点で評価してください」など、具体的な役割を与えることで、AIの回答の方向性と専門性が高まります。創業支援においては、財務アドバイザー、事業計画コンサルタント、市場調査の専門家など、場面に応じた役割設定が効果的です。



文脈情報(Context)背景情報の提供

ビジネスの背景、業界特性、現在直面している課題、これまでの経緯など、判断に必要な前提情報を提供します。「秋田県で農産物の6次産業化を目指している」「資金調達の初期段階で、地域金融機関へのアプローチを検討中」といった具体的な状況を伝えることで、AIはより実践的で個別化されたアドバイスを提供できます。文脈が豊富であるほど、回答の精度が向上します。



具体的指示(Instruction)明確なタスク指定

「何をしてほしいか」を曖昧さなく明確に伝えます。「事業計画書の市場分析セクションを作成してください」「競合分析を県内に絞って比較表を作成してください」など、実行してほしいタスクを具体的に指定します。抽象的な質問ではなく、アクションを明確にすることで、AIは実用的な成果物を生成できます。



出力形式(Format)回答形式の指定

期待する回答の形式や構造を指定します。箇条書き、表形式、段落形式、ステップバイステップの説明など、用途に応じた形式を指定することで、そのまま活用できる成果物が得られます。例えば、「5つのポイントを箇条書きで」「比較表形式で3列に整理」といった具体的な指定が有効です。プレゼン資料や報告書への転用を考えた形式指定が実務上重要です。



制約条件(Constraints)ルールの明示

守るべきルールや制限事項を明示します。「800文字以内で」「専門用語を避けて一般の方にもわかりやすく」「ポジティブな側面だけでなくリスクも含めて」など、制約を設けることで、より実用的で目的に合った回答が得られます。特に創業支援では、予算制約、時間的制約、地域特性などの条件を明確にすることが重要です。

これら5つの要素を組み合わせることで、AIは創業者のパートナーとして、質の高い支援を提供できるようになります。プロンプト設計は、AIを単なる情報検索ツールから、実践的なビジネスアドバイザーへと変える鍵となるのです。

04 地方創業への展開可能性

秋田県のような地方都市では、人材不足や情報格差が創業の障壁となることが多くあります。AIによる創業支援は、これらの課題を解決する有効な手段です。オンラインでアクセス可能なAIツールにより、地理的制約を超えて高品質な支援サービスを提供できます。

また、地域特有の課題や資源を活用したビジネスモデルの提案においても、AIの分析能力は大いに役立ちます。農業、観光、伝統工芸など、秋田の地域資源とテクノロジーを融合させた新しいビジネスアイデアの創出支援が期待されています。

05 課題と今後の展望

一方で、AIによる創業支援にはいくつかの課題も存在します。AIの提案は過去のデータに基づくため、完全に新しい市場や革新的なアイデアに対しては限界があります。また、人間の直感や経験に基づく判断の重要性も依然として高く、AIと人間の協働が不可欠です。

今後は、AIの技術進歩に伴い、より精度の高い市場予測や、個別の創業者に最適化されたカスタマイズ支援が実現されるでしょう。また、地域の創業支援機関がAIツールを積極的に導入し、それを使いこなすことにより、支援の質の向上と効率化を図ることが重要です。

06 まとめ

AIによる創業支援は、従来の支援手法を大きく変革し、創業者に対して効率的で効果的なサポートを提供します。特に地方都市においては、人材や情報の制約を補完する重要な役割を果たします。ただし、AIはあくまでもツールであり、最終的な意思決定は人間が行うべきです。AIと人間の知恵を組み合わせることで、より多くの革新的な企業が生まれ、地域経済の活性化につながることを期待されます。

AIによる創業支援についてもっと知りたいという方は、[秋田県よろず支援拠点](#) にぜひご相談ください。お待ちしております。

秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 × みらいワークス

副業・兼業人材活用 セミナー&個別相談会



このような課題をお持ちの経営者の方はぜひご参加ください。

- ✓ 会社を変えたい
- ✓ 離職者が続いている
- ✓ DX 導入を考えている
- ✓ 海外戦略を実施したい
- ✓ 求人に応募がない
- ✓ 商品開発が進まない

2025. **11.20 木** 13:30-15:30
湯沢文化会館 会議室 秋田県湯沢市字沖鶴103-1
TEL 0183-72-2121

参加費
無料

【申し込み締切】2025年11月13日(木)

募集企業数 [現地参加] 20社 [オンライン参加] 30社

対象者 副業・兼業人材活用に関心がある県内中小企業経営者等

第1部 セミナー+事例紹介

『副業・兼業人材活用とは?』

令和時代の新しい人材確保術
…(株)みらいワークス 岩本大輔氏

県内事例報告
…秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点

第2部 個別相談会 ※先着10社

企業が抱える課題解決に向けて、副業・兼業人材活用の手続きや報酬、ミッションの設定など個別にご相談をお受けいたします。

【主催】秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点(公益財団法人あきた企業活性化センター内) 【共催】株式会社みらいワークス
【後援】秋田県、秋田県商工会議所連合会、秋田県商工会連合会、秋田県中小企業団体中央会、秋田県信用保証協会、
一般社団法人秋田県経営者協会、一般社団法人秋田経済同友会、あきた工業会、一般社団法人秋田県中小企業家同友会

お申し込み
フォームは
こちら→



賛助会員募集

あきた企業活性化センターでは、県内の中小企業の新分野進出や経営革新等を支援する事業を行っており、この活動にご賛同いただける賛助会員を募集しています。

年会費1万円

企業・団体・個人等、どなたでもご入会いただけます。

また、有料広告・無料広告の掲載についても随時募集しております。

賛助会員様の
無料広告は
**随時
受付中**



主な会員特典

- 当センターが発行する月刊情報誌「ビックあきた」の**無料配布**(12ヶ月分)
毎月月末に3,000部発行。賛助会員のほか、マスコミ各社、金融機関、商工団体、県内の大学・高校等へ配布しています。
- 当センターWEBサイトの**リンク集への掲載**
- 「ビックあきた」への賛助会員広告が**無料**
毎月2社程度、A4・1/4頁、カラー印刷

4 有料広告欄の費用が**半額**

5 企業情報等のリーフレット**折り込み**

※要事前相談

6 当センターHPのバナー広告料が**半額**

当センターの賛助会員のリンクも掲載



お問合せ
/申請先

あきた企業活性化センター 総合企画部 総務企画課
TEL.018-860-5603 FAX.018-863-2390 E-Mail:soudan@bic-akita.or.jp

WEBサイトはこちら▶



専門家 派遣事業

2025
年度



あきた企業活性化センターでは、センター登録の民間専門家を派遣し、課題解決のための診断・助言を実施しています。

派遣対象分野

- 経営全般
- IT・情報化
- 技術・生産
- 食品・醸造
- 業務連携・協業化
- 法務・労務
- 税務・会計
- 海外展開
- 販売マーケティング
- その他

※この事業は企業等の自助努力に対して専門的見地から診断・助言を行うものであり、企業等の実務や取引先等の斡旋を行うものではありません。

専門家の謝金を補助

派遣日数は最大延べ2日間で専門家の謝金を全額補助します!

お問合せ

あきた企業活性化センター／総合相談課

〒010-8572 秋田市山王三丁目1-1 TEL:018-860-5610 FAX:018-863-2390 HP:https://www.bic-akita.or.jp

あきた企業活性化センター



皆様の声を お聞かせください!



本誌を読んだ感想や要望など、皆様のご意見をお待ちしております

ご連絡はこちらから▶ 総合相談課 soudan@bic-akita.or.jp